

部門	応募番号	タイトル	概要	備考
小学生部門	1	米祭りプロジェクト	米作りに携わる方々の高齢化や、農業で働く人の数が減っているため、町内外に向けた「開成町米祭り(仮)」を開催する	
	2	子どもの子どもによる子どものための「おゆずり会」	まだ使えるのに、もう使わなくなったものがゴミになってしまうのは問題だと思う。そこで、子どもを主体とした(市区町村規模の)学校教材等の不用品譲渡会を開催する。不用品を買い取ってくれる会社に協力をお願いし次の年の開催資金にしたり、入学前の説明会などを同時に開催する等の工夫も行う。	優秀賞
	3	「ひみつのおるすばん」体験イベント	野菜のことをたくさん学びたいし、お友達と遊べる場所がもっと近くにたくさんほしいため、「ひみつのおるすばん」体験イベントを開催する	
	4	地域とつながる スマイル100%ドリームフェスティバル	コロナの制限が解除されたが、地域の人々の笑顔が少なくなったり、日頃の感謝の気持ちを伝える場がなくなったりしていたため、☆スマイル100%ドリームフェスティバルを開催する	
	5	DREAMS COME TRUE ～KANAGAWAからの贈り物～	子ども達に贈るためにおみやげを買う人は多いが、子ども達目線のおみやげがない。そこで、自分たちが考えるおみやげを提案したい。具体的には県内の農産物やゆかりのある食材を利用したおみやげ(ラスク)の開発を行う。県内各地域をイメージした味を、各地域の子ども達と交流しながら考え、地域の良さやつながりを感じることができる。	最優秀賞
	6	きれいな海を守りたい「海での海産物の養殖とクリーン活動」	海水温上昇、海水内の酸素が減少し海の生き物が棲みにくい環境になっているため、「海での海産物の養殖とクリーン活動」を実施する	
	7	世界中のだれもできる！協力ボードゲーム「世界一周しながら絶滅さぐ種を知ろう！」	約42, 100種以上の絶滅危惧種がいるため、世界中の誰でもできる、世界一周しながら絶滅さぐ種を知るボードゲームと音の出る機械のセットを作る	
	8	本当にみんなが遊べる公園	ボール遊びができなかったり、幼稚園の子どもたち用の遊具しかない公園が多くなっているため、みんなが遊べる公園を作りたい	
	9	お年寄りや大人のためのスマホ、パソコン教室	スマホやタブレットの扱いを得意とする子ども世代が高齢者に使い方を伝える教室を開催し、逆に子どもはおやつをもらったり、勉強を教えてもらう。高齢者と子ども達が交流する場所ができることで、町が明るくなる。知っている人が増えれば、子どもの安全にとってもいいと思う。	優秀賞
	10	子どもの愚痴を聞いてくれるところ	スクールカウンセラーや先生だと言いついたため、学校のこと、家のことで子どもの愚痴を聞いてくれるところが欲しい	
	11	誰でも自由に行かれる無料のカフェが学校で無料のカフェを作って欲しい	学校に行く前の朝ごはんやおやつ、夕飯が食べられない子どもたちがいるため、誰でも自由に行ける無料のカフェが学校で無料のカフェを作って欲しい	
	12	体の不自由な子が過ごせる場所	いろんな子と友達になれるような場所がないため、体が不自由な子だけでなく、誰もが放課後等に自由に行ける場所を作りたい	
	13	かながわにいっぱいびょういんとおいしゃさんをふやす。	各駅に病院がないため、各駅前に病院を作ってすぐ行けるようにする	
	14	ほとんどむりょうにする。	今は子ども関係でお金がかかるため、お金があまりかからないようにほとんど無料にする	
	15	みんながなかよくするように。	仲良くしてなかったらたかひになってしまうため、「あいさつをする」や「ちくちく言葉を言わない」、「ふわふわ大会をやる」ことでみんなが仲良くなれるようにする	
	16	子どもをそだてやすいかんきょうを！	子どもの数が昔よりとても減っているため、子育てしやすい環境をつくっている会社に賞を付けてボーナスになるようにする	
	17	びょういんをふやす。	病院が少ないため、すぐ近くに病院があるといい	
	18	こどものがっこうプロジェクト	自分が暮らしている中の課題について、子どもが解決方法を考えたり意見を出したりする事はほとんどないため、「こどものがっこうプロジェクト」を実施する	
	19	地元サッカークラブと人気アニメーションを繋ぐ総合的な学習の時間について	相模原の知名度が低く、有名なもの、場所がないと言われてしまうため、地元サッカークラブと地元を舞台としたアニメ、漫画とのコラボレーションで地元を盛り上げる	
	20	「えのしましろうぎ大会」子どもから大人まで、誰でも参加できるボードゲーム大会。みんなで楽しめてひとつになれる！！	小さな子どもからお年寄りまで一緒に遊べるボードゲームがあることを知らない人がいるため、「えのしましろうぎ」を知ってもらい、ほかにも様々なボードゲームがあることを知ってもらう	
	21	地域の人達とのビジネス体験をできる環境を整える(神奈川県内の小学校でしかできない経験をつくる)	学校の授業で地元を盛り上げるためのアイデアがあっても、お金の問題で実現できないため、地域の人達とのビジネス体験をできる環境を整える	
	22	AIの世界	配達屋さんは荷物を持ったり、トラックを動かしたり、手や体が疲れているため、広くて透明なパイプに、荷物を入れて、スマホから音が鳴って荷物が届く	
	23	暑さ対策	地球温暖化が進んで暑いので、体温を下げたり、涼むための物を売る自動販売機をつくる	
	24	車イスの方のためのせつびをつくりたい。	エスカレーターもエレベーターも少ないため、車イスの方のための設備をつくりたい	
	25	ゴミを分けよう！	しっかりゴミを分けてないため、しっかりゴミを分けるためにしゃべって教えてくれるゴミばこを作ってほしい	
	26	いえのちかくにこうえんがあったらいい。	家の近くに公園がないため、ブランコがいっぱいの公園が自分の家の近くにあってほしい	
	27	おまつりをやってほしい	お祭りがいないため、夏に花火大会をやってほしい	
	28	いくた。	生田は坂が多いので、エレベーターをつくる	
	29	生田のさかやかいだん	生田の坂や階段が疲れるため、エレベーターを付けてほしい	
	30	本やさんがたくさん出る	今は本屋さんがいないので、キッチンカーで本を運ぶ	

部門	応募 番号	タイトル	概要	備考
小 学 生 部 門	31	ゴミひろい大会	道の端っこの辺にゴミが落ちているため、ゴミ袋をいっぱいにする「ゴミひろい大会」をする	
	32	地球温だんか	電気のつけっぱなしで地球温暖化が進むため、使っていた部屋から出るときに、忘れないように確認して電気を消す	
	33	みらいのまち	みんなが笑顔で明るい未来の町にしたい	
	34	みらいのまち	みんなうるさいため、町がいっぱいになってみんなが笑顔になったらいいな	
	35	神奈川県のばんきょうする。	神奈川県のことを知らないため、神奈川県の勉強をする	
	36	神奈川県の町をきれいにする大会	市ヶ尾のホームがきたないため、区でチームを分けて担当の範囲をきれいにする大会をする	
	37	見た目ではんだんしない	たまに、見て思った事をすぐ口にだしてしまう人がいるため、見た目で判断しない	
	38	神奈川ギネスきろく	イベントをする会場がないため、「神奈川ギネス記録」として狭い会場でもできることをする	
	39	なつをすずしくしたい。	夏が暑いため、扇風機をいっぱい回す、うちでいっぱいばたばたしてもらう	
	40	神奈川県名物づくり	自分なりの名物をつくるイベントがないため、神奈川県にある材料だけで自分なりの名物をつくる	
	41	かながわけんの町にタバコやプラスチックゴミがなくなると へいわになる。	タバコやプラスチックを道や道路に捨てられていて、タバコの火がまだついていたら燃えちゃうため、タバコポイ捨て禁止 という看板を立てて、タバコやプラスチックゴミを捨てる人を減らす	
	42	見らいがしあわせになる。	みんなお金が少ないため、みんなでお金を交換する	
	43	みらいおしあわせにする！	悪口がよくないため、みんなが仲良くして、悪口を自分から言わないようにする	
	44	かながわけんをたのしくする	都市部と観光地にしかプールとかアスレチックとかの遊べる商業施設がないため、田舎や有名じゃないところにも遊べる商 業施設を準備して観光客とか神奈川県民を楽しませる	
	45	ごみのもんだいについて	ゴミが増えて、埋め立てる場所が減ってきているため、リサイクルをもっと頑張ったり、他の処理の方法を考え、一人ひとりが ゴミを減らす取り組みをする	
	46	町のゴミをへらす。	プラスチックやゴミを道や道路に捨てるため、プラスチックやゴミとなるものを使うのを減らす	
	47	けんかやごみ、あるきスマホ(自てん車)をへらそう。	「けんかをする人が多い」や「ゴミが細かいところに落ちている」、「歩きスマホをしている人がいる」という状況ため、けん かやごみ、歩きスマホを減らす	
	48	スピードをおとせばいい。	事故をしないようにしたいため、スピードを落とせばいい	
	49	ぜんぶが食べられる世界	ゴミを川に捨ててしまったり、プラスチックが多いため、みんながゴミをむやみに捨てないで、食べられるスプーンやフォーク を開発してプラスチックを少しずつなくす	
	50	ちきゅうのおんどたもつ	地球が温暖化しているため、地球の温度を保つために二酸化炭素の排出をなくす	
	51	ベネッセだけがのっていて、ばしよをしめす、ちず。	大変な事件(災害)があるところで建物が倒れたり、物が落ちこちてくるのがよくないため、ベネッセだけが載っていて、場 所を示す地図をつくる	
	52	ままがしごとがいっぱいでこまったんです。	ママの仕事が他の人よりいっぱいあるため、ママが仕事を早くやる	

部門	応募番号	タイトル	概要	備考
中高生部門	1	日本の未来への希望	第一次産業の若者離れと日本の食料自給率の低下ため、SNSを通じて耕作放棄地の農業活用を若者に提案していく	
	2	江の島周辺のオーバーツーリズム対策	江の島周辺のオーバーツーリズムため、多言語での標識やマナーの呼び掛け、ダイナミックプライシングを適用する	
	3	ジュニアコンサルによる、おとなのまちづくり応援プロジェクト	子どもが参加するイベントに、子どもの意見を取り入れるチャンスが少ないため、ジュニアコンサルが子どもの意見を取り入れたいイベントに参画し、モデルケースとして成果や課題を発表、報告する	
	4	わたしたちの力で やさしいまちを創ろう！	公共施設や駅などの場所にはバリアフリーマップがあるが、施設を出ると「誰にとっても」分かりやすい案内が見当たらないため、子どもたちの手によって作成された「心のバリアフリーマップ」を県下様々な地域に広げ、看板やパンフレットとして普及する	
	5	「空き家を活用した寺子屋」事業の提案	県では年々空き家の戸数が増加しており、一方で少子化が進行しているため、空き家を活用し、地域の憩いの場にする事で、治安の改善を図るとともに、定年後の教師が活躍できる場を提供する	
	6	SNSを活用してフェアトレードの認知度向上を狙おう～フェアトレードに関する動画を使い～	国際フェアトレード認証ラベルのついた商品を見かけることはあっても、実際に買ったことがある人やそのラベルの意味を知っている人が少ないため、フェアトレードに関する動画を作成し、フェアトレード商品を扱っているお店や広告、SNSを利用して認知度向上を狙う	
	7	起立性調節障害リーフレット配布～正しい理解で当事者の過ごしやすいみらいへ～	現在、起立性調節障害は小学生の約5%、中学生の約 10～30%の有病率と言われているが、正しく理解されているとは言えず、当事者は辛い思いをしている。周囲の理解が進み、当事者等が過ごしやすい社会となるように、起立性調節障害の発症の多い小中学生とその家族や教員を対象として、リーフレットを作成し、配布する。	優秀賞
	8	体験学習×地域創生『りふれくCAMP』	真鶴町に引越して、自然の素晴らしさに感銘を受けたが、一方で人口減少の問題がある事を知った。町に小中高生を招き、地域活動や職業体験を盛り込んだキャンプを実施する事で、真鶴町の魅力を発信し、地域への移住促進と、体験格差の是正を図る。	最優秀賞
	9	外国からの観光客とのイベント、	日本に来ている外国人観光客が多くいるので、そういう外国人に日本の良さや近くの良い場所を教えられるイベントを実施する	
	10	手紙DAY	スマホなどの利用が広がり、手紙の利用者が減ってきているため、1ヶ月に1回程度平日に手紙DAYを作り、学校のHRや国語の授業で手紙を書く	
	11	かわいい公園、	かわいい公園が少ないため、壁に羽の絵が描いてあって写真を撮ったり、かわいいブランコを作ったり、透明の椅子を置いたり、夜にライトアップされるような公園をつくる	
	12	ダンスで盛り上げる in 駅の場所とか	駅は静かで寂しい感じがあるため、通り掛かりの人も楽しめるダンスイベントを月に1、2回くらい開催する	
	13	親に内緒で相談できる場所が欲しい	学校とかで相談すると親に知られてしまうため、親に内緒で相談できる場所が欲しい	
	14	空き家をみんなのスペースに	最近空き家の増加が問題になっているため、空き家を活用して、学校で友達との繋がりがうまくいかない子やお年寄りも友達ができる「みんなの家」をつくる	
	15	学校で動物を飼う	学校で動物を飼育していないため、学校で動物を飼うことで生き物愛する心を育み、仲間意識を強めるとともに、地域の子どもたちやお年寄りを招待してお披露目会をする	
	16	空き家が空きスペースを使った子どもが集まれる場所	子どもが集まれる場所がないため、普段は駄菓子屋をしていて、たまに上映会をしたりする、子どもも大人も利用できる駄菓子屋を市に一つはできるといい	
	17	みんなで楽しめるフリースペース	街にフリースペースがあまりないため、いらなくなった本を集めて誰でも読めるようにしたり、遊べるものとキッチンがあって、月に2回くらい大人と子どもと一緒に夜ご飯を作って食べられる場所をつくる	
	18	無料で保険証の説明会が開けるところ	貧困の人は保険証の作り方を知らない人や勘違いをしている人がいたりするため、無料で保険証の説明会をやる	
	19	年齢に関係なく一日交流できる場所	新型コロナウイルスの影響などによりコミュニケーションを取る機会が少なくなったり、同年代の人としか関わらない人が増えているため、年齢関係なくたくさんの人と話ができ、交流できる場所をつくる	
	20	いろんなところにマップを！	外国人が道に迷っていることがあるため、Google mapのような画面を動かせるマップを至る所に置く	
	21	サステナブル認証のふりかけを横須賀で販売し環境保全と横須賀の地域活性化に繋げる	水産物の環境問題解決に向けた取組みは認知度が低いため、フェアトレード認証やASC認証された食材のふりかけを販売することで、消費者に認証制度の存在を知ってもらう	
	22	お仕事魅せまショー	日本は外国と比べて、未来に希望を持ってない若者が多い。未来と言われて真っ先に思い浮かぶ「仕事」について、知る機会がないことが不安につながってしまうため、職業体験イベントを行う。各職業の若い世代の人から仕事の説明をしてもらい、参加者は興味のあることを見つけ、未来をイメージできるようになる。仕事を伝える若い世代の働き手も自分の仕事に誇りを持てる。	優秀賞
	23	「野球しようぜ！」プロジェクト	野球の練習をしたくても、公園では球技は危険なため禁止されているため、デジタルツールを活用し、野球を愛する人々を繋ぎ、空き時間に利用可能な場所を見つけるサービスを提供する	
	24	ー	全国的に少子高齢化が広まり、神奈川県の出産率は8年連続で減少しているため、空き家を利用し、近くで働く大人が休憩時間に立ち寄りたり、放課後に子どもたちが宿題や読書など落ち着いた環境でできる場を設ける	
	25	マスコバド糖を使ったフェアトレードわたあめ	フェアトレード商品の認知度が低いため、フェアトレード商品であるマスコバド糖を使ったわたあめを作るセットをつくり、小中学校のイベントなどで使ってもらう	
	26	地域に根ざしたカフェを作る	一人暮らしの高齢者は、偏った食生活や生活習慣に陥りがちため、地場産の食材を使用し、高齢者にとって気軽に訪れることのできる第三の居場所となる地域に根ざしたカフェをつくる	
	27	地域の観光名所やイベントの発信方法についての提案 ～韓国と日本の比較から考える～	日本の観光業はさらに盛り上げるために、SNSをいかに上手く活用し他国に宣伝していくかため、活用するSNSのバリエーションを増やし、ダンス動画によるSNSでの広報を行うとともに、ペーパーメディアの技術を活用してお土産にイベント情報が書かれた紙を入れる	
	28	中高生取り組み検定	学校の成績に繋がりにくい社会貢献活動への学生の参画が進まないため、中高生の社会貢献活動などの取組みを審査、認定する検定を実施する	
	29	「少子高齢化と体験格差がもたらす高齢者の孤独感と心の健康への影響」横須賀市の事例から見る現状と課題」	少子高齢化と体験格差がもたらす高齢者の孤独感と心の健康への影響ため、高齢者が集まり、今の子どもたちにいろいろな経験をしてもらう場所をつくる	
	30	ポッチャでスポーツ大会	障がい者スポーツに対して関心のある人が少ないため、ポッチャを通して地域の人と障がいを持っている人がコミュニケーションを取れる機会をつくる	

部門	応募番号	タイトル	概要	備考
若者部門	1	絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラム	海外の貧困の子どもたちのことを知っても、お金をあまり持たない中高校生は解決に貢献するのが難しいため、絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラムに取り組む	
	2	自給自足のための技術習得と食の重要性の理解を目的とした栽培プログラム	現代社会では、スーパーマーケットや商業施設で食材を購入することが一般的であり、どのように野菜や果物が育つかを知る機会が少ないため、自給自足のための技術習得と食の重要性の理解を目的とした栽培プログラムに取り組む	
	3	子ども・若者の心の声を集め、社会資源とマッチングさせるWebサービス	家庭が居場所でないと感じる子ども・若者が増えているが、支援があることがあまり知られておらず、人に助けてと言えない若者が多いため、子ども・若者の心の声を集め、社会資源とマッチングさせるWebサービスを行う	
	4	みやま塾プロジェクト	金銭的な理由などにより塾に通うことのできない子、旅行などの経験をほとんどしたことがない子がいるため、ボランティアスタッフが中心となって学習支援と様々な分野の体験活動イベントを行う	
	5	二期作サクサク大作戦	農業の担い手の高齢化や減少によって、耕作地が使われずに放棄されているため、使っていない耕作地を管理し、共有するアプリやサイトを開発する	
	6	『薬物乱用をVRで体験してみた！ 怖かったー！』プロジェクト	近年、神奈川県で薬物乱用少年が増加傾向にあるため、VR技術を活用して薬物乱用防止教育を提供する	
	7	『もっと知りたい！私たちの神奈川！』プロジェクト	少子高齢化、人口減少、それに伴う働き手の減少、自治体コミュニティの衰退、治安悪化、地方の過疎化など多くの問題を抱えている一方で、その現状を知り危機感を持っている人は多くないため、神奈川の課題とその現状をまとめたwebサイトとパンフレットを作成し、パンフレットを飲料水等と共に配布する	
	8	千木良の農福連携による共に生きる地域の再構築	以前は津久井やまゆり園の利用者と地域の交流があったが、2016年の事件をきっかけに交流が減ってしまった。園内で津久井在来大豆やハーブを栽培し、地域住民と入所者が共に農作業を行う事で、障害者の方の活躍の場づくりと、障がい者入所施設と地域のつながりの再構築を図りたい。	優秀賞
	9	ドローン活用防災システムモデル事業	自然災害が頻発化、激甚化しているため、雨天航行可能な防塵防水ドローンおよびドローンドックを設置し、ドローンを用いた監視システムを構築し、その有用性をモデルケースとして示す	
	10	災害を想定したドローン活用防災訓練	Z世代は震災などへの備えは十分でなく、災害への意識がそれほど高くないため、実際の災害を想定したシミュレーション訓練を行い、ドローンを活用した避難誘導や救助活動、物資の輸送の実践的な訓練を行う	
	11	『ヤギが待ってる！ 行きたくなる学校プロジェクト ～ヤギの学び舎1か月留学システムの導入』	“行きたくなる楽しい学校”にするために、希望する県内の学校で、学校飼育動物として1ヵ月ヤギ及び飼育道具一式をレンタルする。動物が人を癒し、人と人をつなぐ力が、学校が抱える学級崩壊や不登校児の問題解決につながるのではないかとと思う。	最優秀賞
	12	子ども、若者時空プロジェクト。	日本の若者の幸せ度、政治参加度が極めて低く、自殺者も先進国で最も多いため、「子ども若者時空プロジェクト」をスタートする	
	13	啓発的観光事業『シロナガスクジラの赤ちゃんを囲むコンサート』～神奈川県沿岸の秩序を根付かせ	海岸では近隣住民や様々な団体によるクリーン活動が行われているが、ゴミが無くなるため、問題を実感してもらい、神奈川県の取組を広く周知すること目的とした体験型『サンドアート展』とそれにまつわる音楽イベントを開催する	
	14	女子中高生の自己効力感向上と子どもの体験機会の創出	高校生の自己効力感の低下、キャリアを深く考える習慣や将来を描くことに対する好奇心が低い、体験機会の格差があるため、県内の女子中高生を対象に、自己理解・リーダーシップ育成プログラム、体験活動の企画運営プログラムなどを実施する	
	15	ワカモノと地域活動を結ぶプロジェクト	社会問題や、社会課題の解決を行いたい若者が増加しているが、意見を交換する機会が乏しく、仲間を集める機会が少ないため、県内5地区において運営チームを形成し社会問題、理想の状態、課題が生じている理由、解決のための提案を共有するワークショップを開催する	
	16	1人1人の得意や好きを見つけるための探究学習の実施	日本の若者は、諸外国の若者と比べて自分自身への満足度・自分自身に長所があると感じている人の割合が低いと、1人1人の得意や好きを見つけるための探究学習を実施する	
	17	楽しすぎるメディア・リテラシープログラム『レイのブログ』で県民の情報モラルを底上げ！	誤情報・偽情報を取り巻く環境が日に日に悪化しているため、メディアリテラシープログラム「レイのブログ」を中心としたメディアリテラシー教育を県内の学校、大人向けの講座として開催する	
	18	健全な居場所づくりを目指して	若者の居場所不足が問題になっており、孤立して学校に行かなくなった若者たちは教育を十分に受ける機会が減ってしまうため、空き家を有効活用して、青少年の居場所、交流の場、教育の場所づくりを行う	
	19	子どもと高齢者と不登校児の、子ども食堂での交流を通じた地域の「核」づくり	フリースクールやサポート校に通う中高生が、地域の高齢者から料理を教わりながら作り、作った料理を子ども食堂で提供するなど、食を中心とした地域交流を行う。高齢者を含む地域住民との交流を通して、不登校児のコミュニケーション能力不足の解消や、災害時の避難支援につなげたい。	優秀賞
	20	「Z世代に捧げる Key Life」	現在、将来やりたいことが見つからないといった悩みを抱えている若者が多いため、高校生を対象として、やりたいことが見つからない人たちに、将来の新たな選択肢を広げるためのイベントを開催する	